

□平成 26 年度自然史博物館活動の評価について

(群馬県立自然史博物館専門委員 清水 直樹)

平成 26 年度の来館者数は 16 万 7 5 0 0 人で前年度を約 1 0 0 0 人上回ったものの、最近 1 0 年間で最多だった 2 4 年度 (1 8 万 2 0 0 0 人) には届かなかった。2 6 年 6 月に世界文化遺産に登録され、来場者が急増した富岡製糸場の波及効果が期待されたが、思うように伸びなかった。「知を広め、高める博物館」を使命の一つとして掲げており、来館者増への取り組み強化が求められる。

富岡市と連携を図り、富岡製糸場から自然史博物館、富岡市立美術博物館への周遊コースを確立していくことも有効だと思う。来館者アンケートで、リピーターが 6 割に上った。意欲的な企画展示の展開が要因だが、一方で新規の来館者誘致にも目を向けていきたい。地元富岡市内の小中学校の来館を積極的に呼び掛けるなど、地域に親しまれる施設を目指してもらいたい。

外国人旅行者の来館を見込み、展示の説明文や案内板の多言語表記を本格的に検討してほしい。外国人旅行者を呼び込み、地域活性化につなげようという国の政策もあり、訪日客は増加傾向にある。スムーズに見学できるよう受け入れ態勢を整えることで、自然史博物館が外国人旅行者の視野に入り、来館者増につながっていくと思う。

主要事業である資料の収集は約 1 万点で目標を大幅に上回った。しかし、収蔵スペースは満杯で、収蔵庫の通路に熊や鹿などの剥製が並べられている状態だ。スペース不足は以前から指摘されており、保管場所の確保は喫緊の課題と言える。

2 7 年 1 0 月に医学生理学賞、物理学賞と日本人 2 人のノーベル賞受賞が決定し、自然科学分野への関心が高まっている。教育普及や調査研究、シンクタンクとしての社会貢献活動など、一層の充実を期待したい。

(平成 27 年 11 月)